

5 英語

中学校第1学年【英語】

◆ 授業改善のポイント

- 「CAN-DO リスト」や小学校での学びを踏まえた指導計画に沿った授業になっていますか。
- 音声による英語理解や英語使用の土台をどのように構築しますか。
- 「学習者主体の授業」を意図して、基礎的な内容の定着に資する学習活動をどのようにデザインしますか。
- 「言語活動」と「言語活動を支える活動」を区別し、どのようにバランスを図りますか。
- 目的・場面・状況が明確で、意図した資質・能力の育成に迫る活動になっていますか。

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成 果：音声や文字による英語の理解度について、概要を把握する力が付きつつあります。

課 題：対話の流れを把握し、与えられた語から対話を構成するなど、談話文法的な思考や、それらを支える基本的な資質・能力が不十分です。

◆ 成果が見られた問題の概要 大問6「読むこと」(思考・判断・表現)

【設問の概要】 まとまりのある英文を読んで、その概要を把握する力をみます。



英語の授業で、身近なものを調べて発表することになりました。
次の英文は、ある生徒が、アリ(ant)について調べた発表原稿です。
これを読んで、右の問いに答えなさい。

Hello, everyone. What animals do you like? I like ants. We often see ants in the park. Do you sometimes watch them? They *work together. They work for their family. They *carry food to their home. They are great and strong! Some ants are big, and some ants are very small. Some ants are black, and some ants are red or brown. In Australia, some ants use their six legs and swim! I want to see them.

Ants are great!

(注) work together: いっしょに働く carry ~: ~を運ぶ

平均正答率 (%)	本県	市町村	自校
	65.4		

発表の流れを書いたメモとして最も適切なものを、1から4までの中から1つ選びなさい。

1

About Ants

- We can see ants in the park.
- Ants work together.
- Some ants in Japan can swim.

2

About Ants

- We can see ants in the park.
- Ants eat food in their home.
- Some ants in Japan can swim.

3

About Ants

- We can see ants in the park.
- Ants work together.
- Some ants in Australia can swim.

4

About Ants

- Everyone likes ants.
- Ants work together.
- Some ants in Australia can swim.

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	選択比率(%)	自校
	1と解答しているもの	7.8	
	2と解答しているもの	16.4	
◎	3と解答しているもの	65.4	
	4と解答しているもの	10.1	
	無解答	0.2	

【指導継続のポイント】

- 授業で扱うまとまりのある英文(教科書の本文等)について、単語、文法、構文といった個々の要素を正確に認識し、それらを下から積み上げるように組み合わせて英文の意味を理解するアプローチ(Bottom-up Reading)ではなく、背景知識や文脈(全体像)を活用し、推論や予測を用いて全体から少しずつ詳細を理解するアプローチ(Top-down Reading)を踏まえた指導を行います。
- 主としてTop-down Readingで読ませつつ、その過程で新出事項(単語、基本文等)に出会わせる工夫を行い、重要な部分はBottom-up Readingさせながら、概要理解から内容理解へと次第に進んでいく指導を行います。

◆ 課題が見られた問題の概要① 大問10(2)「書くこと」(知識・技能)

【設問の概要】 対話の流れや文法事項などを理解して、適切な語を補って表現できるかどうかをみます。

後で見直し

次のQ11-1, Q11-2について、例を参考にしながら、()内の語に不足している語を補って2語以上にし、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

例:(留学生にミホについてたずねられて)
 A: Is Miho your sister?
 B: No, (she). She's my friend.
 A: I see.
 [答え] she's not [she is not / she isn't]

平均正答率 (%)	本県	市町村	自校
	6.6		

正答	解答類型	選択比率 (%)	自校
◎	Where can / where can	6.1	
○	How can などの許容回答	0.5	
	誤答	87.1	
	無回答	6.3	

〈休み時間に教室で友達と〉

A: You like koalas, right?
 B: Yes. (can) I see them in Japan?
 A: In some zoos.

【主な誤答】

○I can 26.5% ○Can you 5.4%
 ○Can 3.6% ○You can 2.1%
 ○I 1.8% ○What can 1.5%
 ○無回答 6.3%

【問題点】

- 文の意味を理解していない、対話の流れをつかむことができていません。
- 疑問詞を伴う疑問文に対する慣れ親しみが不足しています。
- 音声で思いついた表現を、正確に書くことができていません。

【改善点】

- 音声による英語のやり取りを充実させる言語活動や言語活動を支える活動を実践に行います。(「させていなければできない」の mindset で)
 - ・ 英語による授業を意識し、一単位時間内における全体の英語使用量をしっかり確保します。教師による英語の発話の割合だけでなく、生徒による英語の発話の割合を意識して増やします。
 - ・ 生徒が主体となるよう意図した interaction (相互交流) を充実させます。
 - △ T: How's the weather? S: It's sunny. T: What sport do you like? S: I like ○○. 発話量が増えても、教師の質問から interaction が始まると、生徒は疑問詞を使いません。
 - ◎ S: How do you spell ○○ in English? T: It's ○○. 疑問に思ったことを英語で聞く習慣を付けさせ、生徒から質問が始まる interaction を仕掛けます。
- 音声による言語活動等の充実を踏まえた「書くこと」の指導を充実させます。
 - ・ 音声によるパターン・プラクティス等で扱った英語について1文程度書かせます。
 - ・ 音声による interaction 等の後、自分の思いや気持ち等を1文程度書かせます。

◆ 課題が見られた問題の概要② 大問7「読むこと」(思考・判断・表現)

【設問の概要】 対話文とメール文の内容を把握し、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみます。

留学生のエミリー(Emily)は、ホームステイ先のユイ(Yui)と話しています。

次の英文を読んで、右の問いに答えなさい。

Emily : Yui, this is an *e-mail from my mother in Australia.
 Yui : Oh, nice!
 Emily : It's about my family today. Please read it.
 Yui : Thank you.

[Yui reads the e-mail.]

New message

To Emily Smith

Subject My birthday

From Christina Smith

Hi Emily!

It's my birthday today! We are at home today. Your father and John are in the *kitchen. They *are making a cake. They *give flowers to me every year, but the cake is their *present for me this year. I want to eat the cake with you. I want to see you.

From your mother

(注) e-mail: Eメール kitchen: 台所 are making ~: ~を作っている
 give: おくる present: プレゼント

平均正答率 (%)	本県 49.3	市町村	自校
--------------	------------	-----	----

下の[質問]の答えとして最も適切なものを、1から4までの中から1つ選びなさい。

[質問]What is the present for Emily's mother this year?

- 1 It's a new kitchen.
- 2 It's a cake.
- 3 It's a birthday card.
- 4 It's flowers.

正答	解答類型	選択比率 (%)	自校
	1 と解答しているもの	11.4	
◎	2 と解答しているもの	49.3	
	3 と解答しているもの	17.1	
	4 と解答しているもの	22.2	
	無解答	0.3	

【問題点】

- 場面や状況、英文の内容を理解できていません。
- 問われた内容を理解できていません。
- 概要は把握できても、内容や要点を理解できていません。

【改善点】

- 多様な文章に触れさせ、それぞれの要点を理解させる言語活動を充実させます。
 - ・ 短い説明、エッセイ、物語、日記等を読ませ、要点のみを取り出す活動を行います。
 - ・ 取り出した要点について、なぜそう思うか意見交換させます。(前後や行間を読ませます。状況に応じて日本語も可としながら)
- 読ませた文章に関する推論発問、評価発問、リテリングを行います。
 - ・ 生徒の実態に応じて、推論発問(直接書かれていないことを推測させる発問)や評価発問(内容に対して自分は どう思うかを問う発問)、リテリング(読んだ内容について自分の言葉で再構成して伝えさせる活動)を行います。
- 内容理解した後の音読を大切にします。「read and look up でほとんど言える」がゴール。
 - ・ 理解した内容が表出されるような音読を目指して指導します。

中学校第2学年【英語】

◆ 授業改善のポイント

- 「CAN-DO リスト」を踏まえて「何ができるようになるか」が明確な授業になっていますか。
- 「音声から文字」の原則に沿って、音声による土台を生かした文字指導が充実していますか。
- 「学習者主体の授業」を意図して、既習の表現を自分なりに使わせる活動を位置付け、使わせることで身に付けさせるサイクルが充実していますか。
- 言語活動の高度化を意識した English Rich (教師も生徒も) な授業になっていますか。
- 4技能のバランスを考慮しながら、最終的に書けるようになるよう工夫されていますか。

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成 果：音声や文字による英語の理解度について、概要を把握する力が付きつつあります。

課 題：対話の流れを把握し、与えられた語から対話を構成する力やまとまりのある英文を書く力の育成が不十分です。

◆ 成果が見られた問題の概要 大問14「話すこと」(思考・判断・表現)

【設問の概要】 アニメーションを見て、場面、状況に適した会話を選択できるかどうかをみます。

Q14

動画見直し

この問題は動画を見て答える問題です。音声はありません。

あなたは自宅でテレビをしています。

動画を見て、あなたは何と言うか、吹き出しにあてはまる最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。



平均正答率 (%)	本県	市町村	自校
	88.8		

- 1 Do you know how to play *shogi*?
- 2 Do you want to watch TV?
- 3 What sports do you like?
- 4 How many *kanji* do you know?

【解答類型と本県反応率】

正答	解答類型	反応率(%)	自校
◎	1と解答しているもの	88.8	
	2と解答しているもの	3.6	
	3と解答しているもの	2.2	
	4と解答しているもの	5.0	
	無解答	0.4	

【指導継続のポイント】

- 目的・場面・状況(目場状)を明確にした言語活動を設定し、定着させたい語彙や文を文脈の中で出会わせる工夫をし、意図的にターゲットとなる英語を「使わせる」ことを通して、単にスペリングや意味だけでなく、使用場面や機能、ニュアンスまでを習得させる指導を行います。
- 原則英語による授業を展開する中で、Teacher Talkの手法を踏まえて活動を進めつつ、生徒とのInteractionが単文単答の繰り返しにならないよう留意します。
- ALT等と直接やり取りする言語活動を定期的に設定し、生徒の表現力を駆使させる中で、相手に応じた反応(非言語も含めて)を重視することや、相手の意向に沿って自分の意見を柔軟に変化させながら表現させる活動を充実させます。

◆ 課題が見られた問題の概要① 大問13(2)「書くこと」(知識・技能)

【設問の概要】 対話の流れや文法事項などを理解して、適切な語を補って表現できるかどうかをみます。

Q13 後で見直し

次のQ13-1、Q13-2について、例を参考にしながら、()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

例：(留学生と待ち合わせ場所で)
A: How did you come here?
B: I (come) by bus. [答え] come

平均正答率 (%)	本県 6.2	市町村	自校
--------------	-----------	-----	----

【主な誤答】

○running 28.8%	○ran 14.3%
○runs 8.9%	○running 6.2%
○runed 4.3%	○is running 3.1%
○run 2.0%	○無回答 5.6%

Q13-2

〈道で留学生の友達に会って〉

A: Did you see my brother in the park?
B: Yes. He (run) there when I saw him.

正答	解答類型	反応率(%)	自校
◎	was running / Was running	6.2	
	誤答	88.8	
	無回答	5.1	

【問題点】

- 文の意味を理解していない、対話の流れをつかむことができていません。
- 時制を把握することができていません。
- 進行形に関する理解が不足しています。

【改善点】

- 音声による英語のやり取りを充実させる言語活動や言語活動を支える活動を確実に行います。(「させていなければできない」の mindset で)
 - ・ 英語による授業を通して英語の発話量を確保するとともに、生徒による英語の使用量を計画的に増やします。(生徒同士の活動、生徒が1人で話す活動、生徒がタブレットに書く活動など)
- 音声による言語活動の充実を踏まえた「書くこと」の指導を充実させます。
 - ・ 音声によるパターン・プラクティス等で扱った英語について3文程度書かせます。
 - ・ 自分の考えを3文程度書かせる(言わせる)活動の頻度を上げます。
- 言語活動の高度化(English Richな授業)を意識します。
 - ・ 教師が使用する英語を意図的に高度化します。(単語→チャンク→単文→複文など)
 - ・ 生徒の発話を個に応じて高度化できるよう工夫します。「学習者主体の授業」と意識して)
 - ・ パターン・プラクティス等の言語活動を支える活動の高度化を図ります。
- 上記のような言語活動等を行う中で、文法事項の確実な定着を図ります。
 - ・ 文法的なエラーに対する教師からの明示的(はっきり指摘する)なフィードバックと暗示的なフィードバック(気付かせる)のバランスを意識し、「時制の一致」などは暗示的に気付かせる指導を徹底します。
 - ・ 進行形などの独特な表現は、「漆塗り型」での定着が図られるよう、ていねいな繰り返しを意識します。

◆ 課題が見られた問題の概要② 大問15「書くこと」(思考・判断・表現)

【設問の概要】 自分の考えなどを整理し、まとまりのある英文を書くことができるかどうかをみます。

Q15
 後で見直し

あなたは中高生向けのインターネットのサイトに投稿することにしました。
 Let's Try Something New! というコーナーに送る文章を、下の【条件】に合うように英語で書きなさい。

【条件】

- ① はじめに、あなたが何に挑戦したいかを書くこと。
- ② なぜそのことに挑戦したいのか(理由)、どのように挑戦しようと考えているのか(方法)、また、それらについてどう思っているのか、などについて具体的に書くこと。
- ③ 15語以上の英語で書くこと。英文は、2文以上になってもかまいません。

※ Hello, Thank you. などのあいさつや、自己紹介は語数に含めません。

※ 短縮形(I'mやdon'tなど)は1語と数え、符号(、や?)は語数に含めません。

(例) No, I'm not. (3語)

平均正答率 (%)	本県 14.2	市町村	自校
--------------	------------	-----	----

【採点基準の視点】

視点A
 ①挑戦したいことを書いている。
 ②理由や方法、自分の思いなどを具体的に書いている。
 ③15語以上の英語で書いている。※短縮形(I'm や don't) は1語と数え、符号は語数に含めない。

視点B
 コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項の誤りが無い。

正答	解答類型	反応率(%)	自校
◎	正答	2.7	
○	許容回答	11.5	
	【視点A】は満たしているが【視点B】を満たしていないもの	38.4	
	【視点A】を満たしていないが【視点B】は満たしているもの。	3.6	
	【視点A】も【視点B】も満たしていないもの。	23.0	
	その他	7.7	
	無解答	13.1	

【問題点】

- 書く内容について、自分なりの発想をもつことができていません。
- 発想した内容を適切な(簡素な)英語にできていません。
- 正確に英語で書くことができていません。

【改善点】

- まずは十分な音声でのやり取りで、表現の定着を図ります。(「書ける」前に「言える」ように!)
 - ・ 授業の導入時に、簡単で即興的なやり取りをする帯学習を設定します。
 - ・ Teacher Talk 等で English Rich な授業を展開します。
- 音声から文字へのスムーズな移行を意識します。(「言える」ものからどんどん書かせる)
- 少量から「書かせる指導」を充実させます。(生徒の「書きたい」気持ちを喚起して書かせる)
- 語彙や基本文などの言語材料は、場面や文脈の中で上手に出会わせ、意味やスペリングだけではなく働きや機能も理解(感じ)させ、それらを「使う」言語活動を通して習得させます。
- まとまりのある英文を書かせる場合は、例文を示さずにまずは使わせてみることから始めてみます。(「Trial and Error」)
- 既習の表現等を何度も使わせる場を設定し、エラーについては、教師からのフィードバックを工夫し、生徒自身の気付きが増えることで正確性が上がるよう指導します。